

3835 心模様：平成から令和へ・親父の平和への願い

我が家も、戦争のために、環境も状況も激変。誰もが試練の時代に突入した。

選べない環境と状況。しかし、今、このような状況で、心模様を書いていることに心から感謝。

平成に、戦争がなかったのが、何より安堵したと。失った体験をしたものには実感がある。

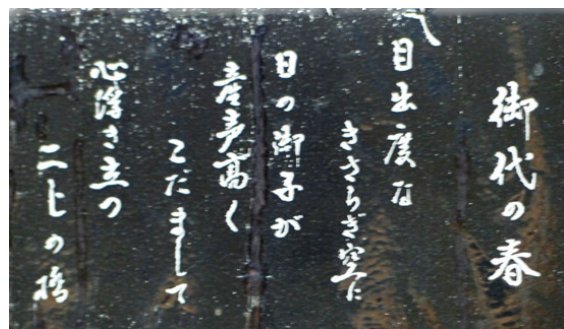
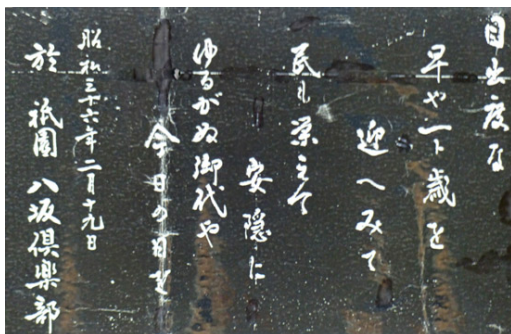
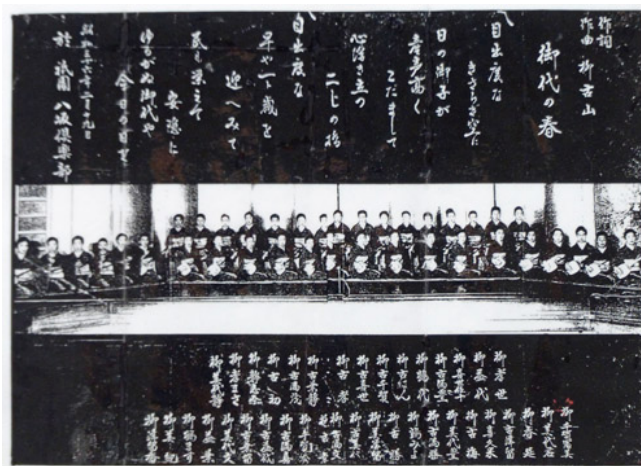
平成から令和へ。二度と戦争が起こらないように、平和が続くようにと、心から願う。

下記は、親父殿が作詞した文句。新天皇の誕生をお祝いして、柳派の新年発表会。

仕事の傍ら、芸道において一定の技能を習得して、師匠より芸名を許される名取でもあった

親父殿が、毎年、作詞を頼まれていた。柳派のお家元が作曲。書も、親父殿が書いている。

昭和36年2月19日、私も、祇園・八坂倶楽部で鑑賞。今、齢を経て、思い出している。

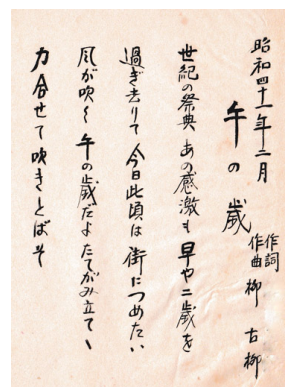
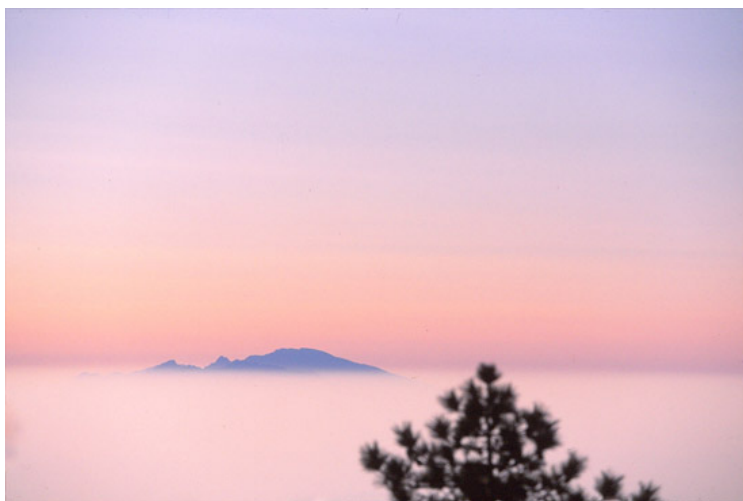


私の古都への関心、寺社仏閣始め、日本文化への興味は、父と共に、潜在意識として残っている。
禅寺・鎌倉円覚寺での十年の座住。日本の伝統文化の純楮、寒漉き和紙。
今だから言える。円覚寺内で夢絵創作の作業をしていたわけではない。海外取材の傍ら、
作業場として、ご近所で部屋をお借りして、没頭していた日々が、思い出される。

両陛下が、北欧のご皇室とご一緒に、鎌倉円覚寺を訪ねられたことがある。
当時、管長様には、国宝舍利殿から出てこられた時の、皆さまの和紙夢絵作品を…
顔料が百年、純楮寒漉き和紙は千年の耐久性。問題もあり、門外不出だが、両陛下の作品も所持。
作品は肖像画のような作品だが、大きな心の支えでもある。

在位中の番組を見ていて、頭がさがると共に、頑張らないと、と再確認。
感謝と今後のご多幸を願って掲載させて頂いた。

この5年後の昭和41年、発表会の文句には、いささか心配な文言。私も、あおりを受けた。
しかし、「力合わせて、吹きとばそ」とある。両陛下も望んでおられること。



次の時代への希望。夢は探すのでなく、夢は創るもの。
何事も、あきらめない。前向きに、日本人の一人として頑張りたいと、心を新たにされた次第。
陽はまた昇る。令和が楽しみ。どんな時代になるのか、プラス思考で、見守りたい。